

平成30年度 校内研究の概要

1 研究主題・副主題

主体的に学ぶ児童の育成 ～「学びのプロセス」を生かした、学び合いを通して～

2 主題設定の理由

(1) 学校教育目標の具現化から

学校教育目標

『子どもたちが来たくなる学校』
一人ひとりの個性を生かしながら、豊かな人間性と実践力
のある心身ともに健康な児童の育成

〈めざす児童像〉

知
かしこく
よく考え
自ら学ぶ児童

徳
やさしく
豊かな人間性を
もった児童

体
たくましく
心身ともに健康で
粘り強い児童

本校では、「子どもたちが来たくなる学校」を目標に、一人一人の個性を生かしながら豊かな人間性と実践力のある心身共に健康な児童の育成を図った教育活動を行っている。また、「生きる力」を育み、かしこく（知）やさしく（徳）たくましく（体）児童が育つように全人的な教育をめざしている。

「心身ともに健康な児童」（健やかな体）は、「かしこくよく考え、自ら学ぶ児童」（確かな学力）である。「学校に来て学びたい」と、児童が自ら行動できるよう、研

究主題に向かって、研究・実践していくことが、学校教育目標の具現化につながると考えている。

(2) 研究の経過と今年度の方向性

昨年度までの研究では、本校の「学びのプロセス」における、「伝え合い学び合う」過程の充実を図るための指導法について研究を進めてきた。「学びのプロセス」において「考えをもつ」ことはできても、「伝え合う」過程において、意見の発表に留まり、互いに「学び合う」過程に課題が見られたため、「考えをもつ」から「伝え合い学び合う」に絞った指導法の研究を進めてきた。低学年では「話し方名人・聞き方名人」、高学年では「算数はかせどん」といった言語活動の手立てをもとにした授業づくりを行い、発達段階に応じた意見交換や話し合い活動、討論活動を取り入れた授業実践の中で、「伝え合い学び合う」過程の充実が見られた。その中で、意見を交換し合う「伝え合い」から、子ども同士の「学び合う」へとつなげていく過程では、時間が十分に確保できなかったり、交換し合った意見を深めることができなかつたりと、手立ての検証や継続した指導の必要性などの課題が見られた。

新学習指導要領改訂の方向性では、三つの柱のうちの「どのように学ぶか」の中で、「主体的・対話的で深い学び」という言葉で、アクティブ・ラーニングの視点からの学習過程の改善を提示している。ここで言われている「主体的・対話的」とは、表面的に子どもたちが活発に学習活動を行ったり、形式的に話し合い活動を行ったりしてのことではない。児童自身が主体的な学習者として学習課題と向かい合い、課題の探求や解決に取り組んでいくことである。そのためには、与えられた課題や活動をこなす児童ではなく、児童自らが学ぶという姿勢を育てるための授業づくりがこれまで以上に重要になってくる。

そこで今年度の校内研では、本校で研究が進められてきた授業スタイル「学びのプロセス」を生かした授業づくりの実践とさらなる充実を進めていく。その中でも、昨年度でも課題となった「伝え合い、学び合う」から「課題解決する」の過程を充実させていく。児童が主体となった「学び合い」の場面を充実させた授業づくりを進めていくことで、研究主題である「主体的に学ぶ児童の育成」について研究を深めていきたい。

3 研究目標

各教科の学習において、「学びのプロセス」を生かして、
児童の学びあいの場面 (A) を取り入れた授業づくりを工夫すること
によって、主体的に学ぶ児童 (B) を育てていく。

(A) 児童の学びあいの場面

学びのプロセスの「伝え合い、学び合う」から「課題解決する」の過程において、子どもたち同士が考えを伝え合い比較検討して、課題についてまとめたり自分の考えを深めたりする場面

(B) 主体的に学ぶ児童

- 進んで思考，表現をしようとする。
- 進んで課題に取り組み，自分や友達力で解決しようとする。
- 自分と友達考えを比較検討して，考えを深めようとする。
- 楽しんで学習活動に取り組もうとする。

4 研究内容・方法

(1) 「学びのプロセス」を生かした授業づくり

①授業研究

- 低学年・高学年ブロックの二つに分かれて授業研究を行っていく。
- 学年のつながりを考慮しながら，指導法について研究する。

②意識調査の実施

- 提案授業の事前・事後に，児童へのアンケート調査を実施し，児童の変容をつかむ。

③一人一実践

- 各ブロックで研究した手立てに沿って，授業改善を行っていく。
- 可能な範囲で相互参観を行い，授業を行った成果と課題について交流する。

④各ブロックでの提案授業

- 各ブロックで研究した手立てに沿って授業を行う。授業研究会を行い，その成果と課題について検討する。
- 提案授業を通した児童の変容を評価することで，手立ての有効性を検証する。

⑤研究のまとめ

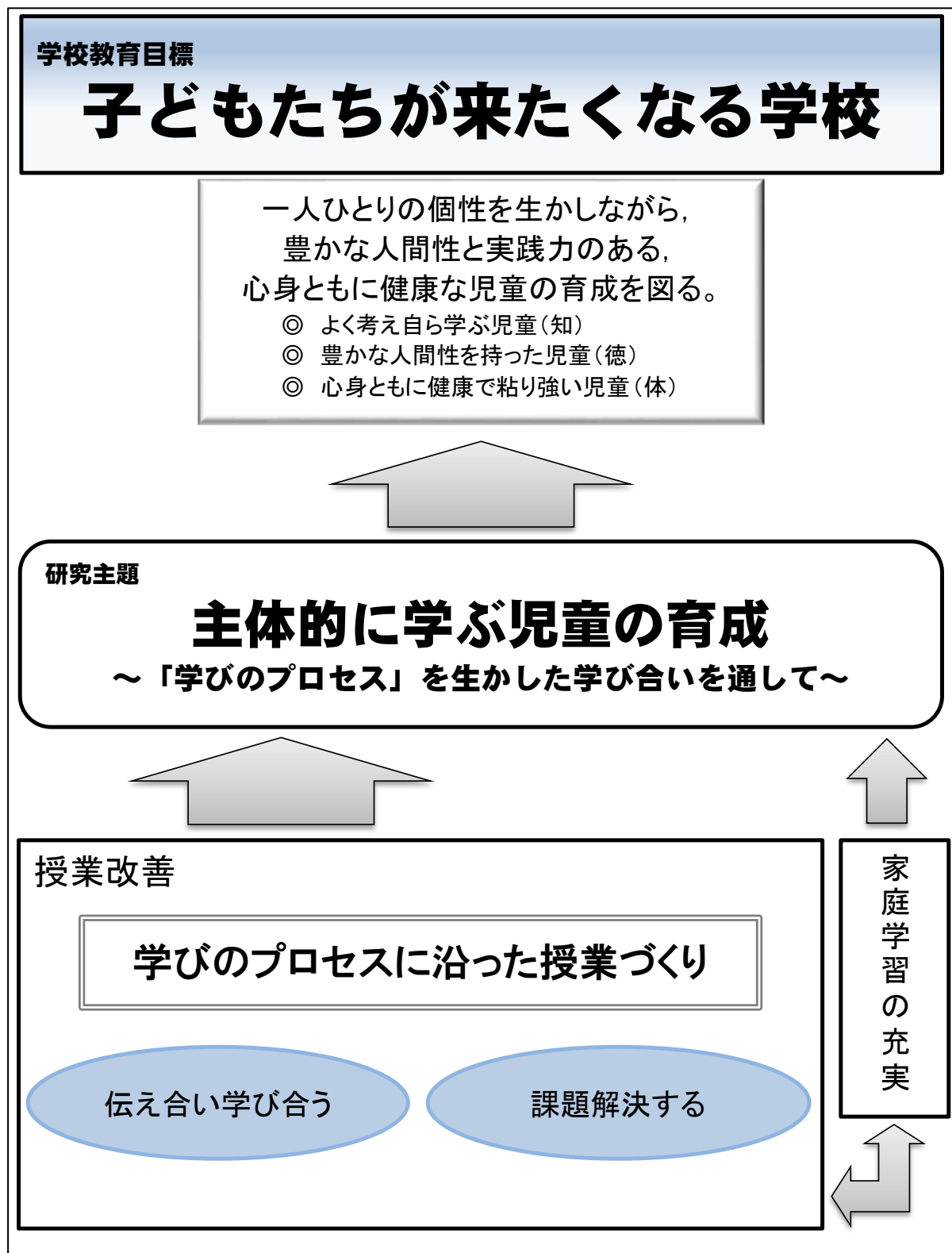
- 本年度の研究の成果と課題を明らかにし，今後の教育実践に生かすとともに，研究の記録を収録した研究紀要を作成して，研究に関する情報を公開する。

(2) 学習会

- 講師を招聘して，新学習指導要領実施に向けて，様々な指導方法について学習する。

(3) 家庭学習への取り組み

- 学校全体で共通の家庭学習カードと家庭学習の手引き（平成30年度版）を活用して，家庭学習の定着に向けた取り組みを行う。



学びのプロセス

作業的・体験的活動

・課題解決のための様々な活動

・目標に向かって行動すること

課題をつかむ

児童の活動

- ・課題把握
- ・目標設定
- ・計画・予想

教師の支援

- ・提示の工夫
- ・実態把握
- ・場と時間確

考えをもつ

- ・考えをもつ
- ・表現の仕方を工夫する

- ・ノートやワークシートの工夫

伝え合い学び合う

- ・交流する
- ・認め合う
- ・補い合う

- ・場の設定
- ・場の工夫
- ・学級づくり

課題解決する

- ・考えを表す
- ・比較検討する
- ・まとめる

- ・個に応じた支援・指導
- ・賞賛する

振り返る

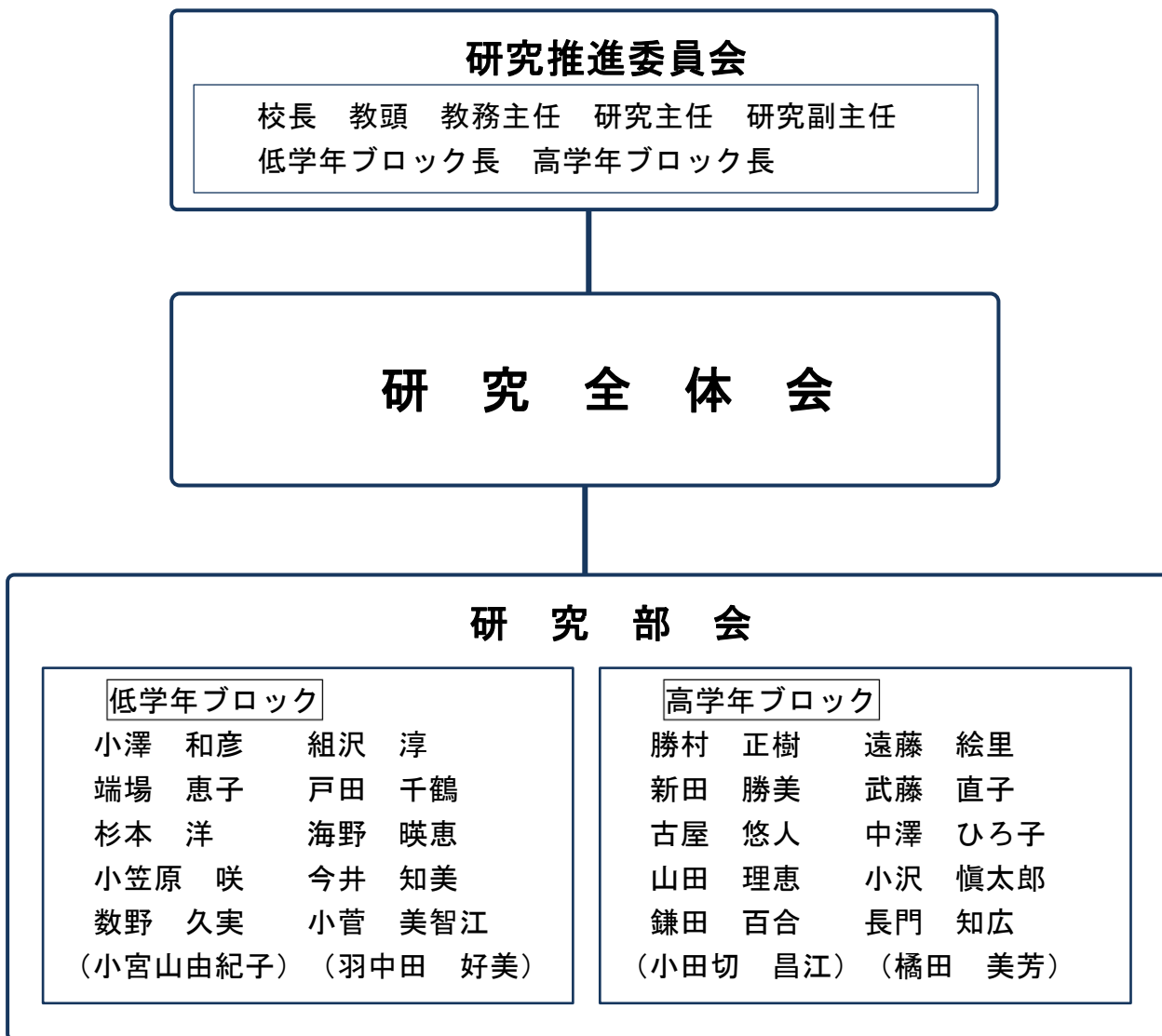
- ・学習感想を書く
- ・成果と課題から次への意欲へ
- ・学習や活動の意義を知る

- ・学習感想を書かせ振り返りを行う
- ・評価する

学習の楽しさ・活動の意義・新たなる課題

次への意欲

主体的に学ぶ児童



7 研究計画

| 月 | 日 | 曜 | 会 | 内容 |
|----|----|---|------------------------|---------------------|
| 4 | 4 | 水 | 第1回 研究推進委員会 | 今年度の研究の方向性について |
| | 10 | 火 | 第1回 全体研究会 | 研究の概要について |
| 5 | 15 | 火 | 第2回 全体研究会 ブロック研究会 | ブロック長, 提案授業者の決定 |
| 6 | 11 | 火 | 第3回 全体研究会 | 講師を招聘しての学習会 |
| 7 | 10 | 火 | 第4回 全体研究会 ブロック研究会 | 提案授業について |
| | 23 | 月 | 第5回 全体研究会 ブロック研究会 | 一人一実践について |
| 8 | 20 | 月 | 第6回 全体研究会 ブロック研究会 | 研修会等還流報告 |
| | | | ブロック研究会 | 提案授業検討(各ブロックで実施) |
| | 28 | 火 | 第7回 全体研究会 ブロック研究会 | 全国学力学習状況調査の結果分析 |
| 10 | 22 | 月 | 第8回 全体研究会 ブロック研究会 | 提案授業全体検討 |
| | | | (未定) 全体研究会 | 提案授業① |
| | | | ブロック研究会 | 提案授業検討(各ブロックで実施) |
| 11 | 6 | 火 | 第9回 全体研究会 | 提案授業全体検討 |
| | | | (未定) 全体研究会 | 提案授業② |
| 12 | 14 | 金 | 第10回 全体研究会 | 研究紀要について |
| 1 | 28 | 月 | 第11回 全体研究会 | 講師を招聘しての学習会 研究のまとめ |
| 2 | 6 | 水 | 第12回 全体研究会 | 研究のまとめ, 来年度の方向性について |